

DB
02055
2004-1
HG

筑波大学博士（言語学）学位請求論文

チャージャーにおける
語形成についての
記述的研究

I

米倉 綽

寄贈
米倉綽氏

05009401

目 次

序章

0.1	語形成と言語学	1
0.2	語形成と形態論	2
0.3	分析可能な構成要素	4
0.4	クラス I 接辞とクラス II 接辞	5
0.5	チョーサーの語形成に関する研究	9

第1章 チョーサーにおける接頭辞

1.1	はじめに	13
1.2	接頭辞 a+ [-linate]	14
1.2.1	[a· + N] _{Adv} の場合	14
1.2.2	[a· + A] _{Adv} の場合	15
1.2.3	[a· + V] _V の場合	15
1.3	接頭辞 arch# [+linate]	17
1.4	接頭辞 be+/bi+ [-linate]	17
1.4.1	be-/bi- が 'around' の意味を有して新しい動詞を派生する場合	18
1.4.2	付加される基体の動詞の意味を強める場合	19
1.4.3	付加される基体の動詞の意味に「欠如、欠乏」などの 消極的な意味合いが加わる場合	20
1.4.4	付加される基体の動詞が他動詞に変化する場合	20
1.4.5	名詞に付加して動詞を派生する場合	21
1.4.6	形容詞的に用いられている過去分詞に付加されて軽蔑的な意味が加わる場合	21
1.5	接頭辞 co# [+linate]	22
1.6	接頭辞 counter# [+linate]	23
1.7	接頭辞 de+ [+linate]	24
1.7.1	de- が「下降」(down, down from, down to) の意味を表す場合	25
1.7.2	de- が「分離」(off, away, aside) の意味を表す場合	26
1.7.3	de- が基体の語の意味を強める場合	27
1.7.4	de- が「悪化、非難、軽蔑」の意味を表す場合	29
1.7.5	de- が「下降または分離」の意味を表す場合	32
1.7.6	de- がどのような意味を表しているか不明な場合	32
1.7.7	接頭辞 de- による派生語についてのまとめ	33
1.8	接頭辞 dis+ [+linate]	34

1.8.1	「異なる方向に； 分離して」 (in different directions, apart, asunder, abroad, away) の意味を表す場合	35
1.8.2	「欠乏・欠如」の意味(privative sense)を表す場合	39
1.8.3	付加している基体の意味を強める(intensive)場合	43
1.8.4	接頭辞 dis- 付加による派生語についてのまとめ	44
1.9	接頭辞 en+ [+latinate]	46
1.9.1	名詞に付加して動詞を派生する場合	46
1.9.2	動詞に付加して主として他動詞を派生する場合	49
1.9.3	形容詞に付加して動詞を派生する場合	50
1.10	接頭辞 enter+ [+latinate]	52
1.11	接頭辞 ex+ [+latinate]	54
1.12	接頭辞 for+ [-latinate]	59
1.12.1	[for- + V] を基本構造とする派生語の場合	59
1.12.2	[for- + N/V] を基本構造とする派生語の場合	62
1.12.3	for- の意味がはっきりしない場合	62
1.12.4	[for- + V] を基本構造とする場合： for- はクラス II 接辞	62
1.12.5	[for- + N] を基本構造とする場合： for- はクラス II 接辞	63
1.12.6	接頭辞 for- 付加による派生語についてのまとめ	63
1.13	接頭辞 i-/y+ [-latinate]	68
1.13.1	[i-/y- + V _{pp1}] _v の場合	69
1.13.2	[i-/y- + V] _v の場合	73
1.13.3	[i-/y- + A] _A の場合	73
1.13.4	[i-/y- + Adv] _{Adv} の場合	73
1.14	接頭辞 in+ [+latinate]	75
1.14.1	[in- + A] _A の場合	76
1.14.2	[in- + N] _N の場合	79
1.14.3	[in- + V] _v が基本構造となっている場合	81
1.14.4	接頭辞 in- 付加による派生語のまとめ	83
1.15	接頭辞 mis# [-latinate]	84
1.15.1	[mis- + V] _v の場合	85
1.15.2	[mis- + N] _N の場合	88
1.15.3	[mis- + A] _A の場合	89
1.15.4	チョーサーが最初に英語に導入した mis- 派生語	89
1.16	接頭辞 non# [+latinate]	91
1.17	接頭辞 of+ [-latinate]	92
1.18	接頭辞 pre# [+latinate]	94
1.18.1	[pre- + V] の場合	94

1.18.2	[pre- + N] の場合	95
1.18.3	チョーサーが最初に英語に導入した pre- 派生語	96
1.19	接頭辞 re+ [+latinate]	97
1.19.1	'against' の意味を表す場合	97
1.19.2	'again' の意味を表す場合	98
1.19.3	'new, anew' の意味を表す場合	100
1.19.4	'away' の意味を表す場合	100
1.19.5	'back, backwards' の意味を表す場合	101
1.19.6	接頭辞の un- および dis- と同じように 否定的な(negative)意味を表す場合	103
1.19.7	re- がどのような意味を表しているか明確でない場合	104
1.19.8	接頭辞 re- 付加による派生語についてのまとめ	107
1.19.9	チョーサーが最初に英語に導入した re- 派生語	107
1.20	接頭辞 semi# [+latinate]	109
1.21	接頭辞 sub# [+latinate]	109
1.21.1	動詞に付加された sub- 派生語	110
1.21.2	名詞に付加された sub- 派生語	110
1.21.3	チョーサーが最初に英語に導入した sub- 派生語	111
1.22	接頭辞 sur+ [+latinate]	111
1.23	接頭辞 to# [-latinate]	112
1.23.1	「分離、粉碎」の意味を表す場合	112
1.23.2	基体である動詞の意味を強めている場合	113
1.23.3	「分離、粉碎」と「強意」の両方の意味を表す場合	113
1.23.4	チョーサーによって最初に英語に導入された to- 派生語	114
1.24	接頭辞 un# [-latinate]	114
1.24.1	un- が形容詞に付加する場合 ([un- + A] _A)	114
1.24.2	[V + -able] _A に un- が付加する場合 ([un- + [V + -able] _A] _A)	116
1.24.3	名詞に接尾辞が付加されて形成された派生形容詞に un- が付加された場合([un- + [N + suffix] _A] _A)	117
1.24.4	形容詞化された動詞の過去分詞に un- が付加された場合([un- + V _{pp} .as A] _A)	117
1.24.5	形容詞化した動詞の現在分詞の -ing 形に un- が付加する場合([un- + V _{pres} .pl. as A] _A)	121
1.24.6	[un- + A] _A にクラス II に属する接尾辞が 付加される場合([un- + A] _A + -ness] _N)	121
1.24.7	[un- + A] _A + -ly] _{Adv} の場合	122
1.24.8	名詞に付加される場合([un- + N] _N)	123

1.24.9	行為の「逆」の意味を表す動詞に付加される場合([un- + V]v).....	124
1.24.10	un- 派生語のタイプ頻度とトークン頻度.....	125
1.24.11	<i>Boece</i> における un- 派生語と in- 派生語.....	125
1.24.12	チョーサーが初例とされる un- 派生語.....	126
1.24.13	接頭辞 un- 付加による派生語についてのまとめ.....	130
1.25	接頭辞による派生語のまとめ.....	131
第2章	チョーサーにおける接尾辞	
2.1	はじめに.....	140
2.2	名詞を派生する接尾辞.....	141
2.2.1	接尾辞 #age [+linate].....	141
2.2.2	接尾辞 #al/#ail [+linate].....	146
2.2.3	接尾辞 +ance/+aunce/+ence [+linate].....	147
2.2.4	接尾辞 +ant/+ent [+linate].....	157
2.2.5	接尾辞 +at [+linate].....	160
2.2.6	接尾辞 +dom [-linate].....	161
2.2.7	接尾辞 #er [-linate].....	163
2.2.8	接尾辞 #ess (1) [+linate].....	178
2.2.9	接尾辞 #ess (2) [+linate].....	182
2.2.10	接尾辞 #ery (1) [+linate].....	185
2.2.11	接尾辞 #ery (2) [+linate].....	187
2.2.12	接尾辞 #(e)ster [-linate].....	189
2.2.13	接尾辞 +et [+linate].....	191
2.2.14	接尾辞 #hood/#head [-linate].....	193
2.2.15	接尾辞 +ion/+acion/+cion/+ucion [+linate].....	197
2.2.16	接尾辞 #ing [-linate].....	215
2.2.17	接尾辞 +ist [+linate].....	293
2.2.18	接尾辞 +ity [+linate].....	294
2.2.19	接尾辞 #ment [+linate].....	306
2.2.20	接尾辞 #ness [-linate].....	311
2.2.21	接尾辞 +our/+or [+linate].....	320
2.2.22	接尾辞 #ship [-linate].....	330
2.2.23	接尾辞 #ster [-linate].....	332
2.2.24	接尾辞 +th [-linate].....	334
2.2.25	接尾辞 +ure [+linate].....	335
2.2.26	チョーサーにおける接尾辞による派生名詞のまとめ.....	338
2.3	形容詞を派生する接尾辞.....	345

2.3.1	接尾辞	-able [+linate]	345
2.3.2	接尾辞	+al [+linate]	361
2.3.3	接尾辞	+ant/-ent [+linate]	367
2.3.4	接尾辞	+ary [+linate]	373
2.3.5	接尾辞	#ed [-linate]	373
2.3.6	接尾辞	#ful [-linate]	390
2.3.7	接尾辞	+ic [+linate]	396
2.3.8	接尾辞	#ing [-linate]	397
2.3.9	接尾辞	#ish [-linate]	406
2.3.10	接尾辞	+ive [+linate]	409
2.3.11	接尾辞	#les [-linate]	412
2.3.12	接尾辞	#ly [-linate]	416
2.3.13	接尾辞	+ous [+linate]	420
2.3.14	接尾辞	#som [-linate]	427
2.3.15	接尾辞	#y [-linate]	428
2.3.16	チョーサーにおける派生形容詞についてのまとめ		433
2.4	副詞を派生する接尾辞		441
2.4.1	接尾辞	+e [-linate]	441
2.4.2	接尾辞	#les [-linate]	468
2.4.3	接尾辞	#ly [-linate]	470
2.4.4	接尾辞	+ward [-linate]	493
2.4.5	チョーサーにおける派生副詞についてのまとめ		500
2.5	動詞を派生する接尾辞		505
2.5.1	はじめに		505
2.5.2	接尾辞	+en [-linate]	506
2.5.3	接尾辞	+ify/+fy [+linate]	511
2.5.4	チョーサーにおける派生動詞についてのまとめ		513
第3章	チョーサーにおけるゼロ派生語		
3.1	はじめに		516
3.2	臨時語について		516
3.3	転換またはゼロ派生		522
3.4	臨時語およびゼロ派生・転換に関するまとめ		528
3.5	ゼロ派生語の基体を定める基準		528
3.6	「名詞 → 動詞」の型		532
3.6.1	基底文において名詞が目的語となる場合		532
3.6.2	書き換え文にすると元の名詞が目的格補語となる場合		545

3.6.3	書き換え文にすると元の名詞が主格補語となる場合	546
3.6.4	書き換え文にすると元の名詞が手段あるいは道具格として表される場合	546
3.6.5	書き換え文で元の名詞が場所あるいは位置を表す場合	548
3.6.6	「名詞 → 動詞」の型に関するまとめ	549
3.7	「動詞 → 名詞」の型	549
3.7.1	名詞が動詞によって表現される動作主を表す場合	549
3.7.2	名詞が動作の具体的な対象または結果を表す場合	550
3.7.3	動作の抽象的な結果を表す名詞となる場合	556
3.7.4	「動詞 → 名詞」の型に関するまとめ	559
3.8	「形容詞 → 動詞」の型	559
3.8.1	形容詞によって表される性質になる、 あるいは性質であることを意味する動詞	559
3.8.2	人あるいは物を形容詞によって示される性質であるようにする、 あるいは性質になるようにすることを表す動詞	560
3.8.3	形容詞によって示される動作が遂行される様式を意味する動詞	562
3.8.4	「形容詞 → 動詞」の型に関するまとめ	562
3.9	その他のゼロ派生語	563
3.10	チョーサーによって最初に英語に導入されたゼロ派生語	564
3.11	ゼロ派生語に関するまとめ	568
第4章	チョーサーにおける派生語と脚韻	
4.1	はじめに	575
4.2	翻訳作品と創作作品	575
4.3	創作作品の場合	575
4.4	翻訳作品の場合	578
4.5	翻訳作品で英語本来の接尾辞を用いている場合	579
4.6	創作作品にも翻訳作品にも言える場合	582
4.7	脚韻以外の原因による場合	583
4.8	逆派生の場合	585
4.9	まとめ	586
第5章	チョーサーにおける接辞の生産性—— -ness と -ity の場合	
5.1	はじめに	588
5.2	接尾辞 -ity と -ness の生産性に関する先行研究	589
5.3	チョーサーにおける -ity と -ness 付加による派生名詞の頻度	589
5.4	形態的素性	590
5.5	接尾辞が付加される基体に課される形態上の制約	591

5.6	阻止現象 (blocking).....	593
5.7	色彩を表す語の派生.....	593
5.8	具体的な意味を表す語の派生.....	594
5.9	意味的な透明性.....	595
5.10	まとめ.....	597
第6章	チョーサーにおける複合語	
6.1	はじめに.....	600
6.2	複合名詞.....	600
6.2.1	[Noun + Noun] 型.....	601
6.2.2	[Noun's + Noun] 型.....	609
6.2.3	[Noun + Ving as Nominal] 型.....	610
6.2.4	[Ving as Nominal + Noun] 型.....	611
6.2.5	[Adjective + Noun] 型.....	612
6.2.6	[Numeral + Noun] 型.....	613
6.2.7	[Pronoun + Noun] 型.....	613
6.2.8	その他の型.....	614
6.2.9	内心複合語と外心複合語.....	615
6.2.10	OED にも MED にも記載が見られない複合名詞.....	616
6.2.11	チョーサーが OED の初出年より早く英語に導入した複合名詞.....	618
6.2.12	OED および MED でチョーサーが初例とされている複合名詞.....	619
6.2.13	複合名詞についてのまとめ.....	623
6.3	複合形容詞.....	625
6.3.1	[Adverb + Present Participle] 型.....	625
6.3.2	[X + Past Participle] 型.....	626
6.3.3	[Noun + Adjective] 型.....	630
6.3.4	[Adjective + Adjective] 型.....	632
6.3.5	[Adverb + Adjective] 型.....	632
6.3.6	[Adjective + Noun] 型.....	633
6.3.7	[Noun + Noun] 型.....	635
6.3.8	複合形容詞についてのまとめ.....	635
6.4	その他の複合語.....	636
6.4.1	複合動詞.....	636
6.4.2	複合副詞または複合前置詞.....	638
6.4.3	複合間投詞.....	639
6.4.4	その他の複合語についてのまとめ.....	639

終章..... 642

参考文献..... 647